京城新報

雜報

●營林廠と植林　營林廠は鴨綠、豆滿兩江流域の森林經營に着手して以來既に數年を經たるが何分經營着手以前濫伐されて運搬に便利なる地方の採伐を盛んにしため比較的不便なる流域の伐採に從事せざるべからずして困難少なからざりし既に官營建築に要する用材の使途も大部分を終り目下に於ては朝鮮內の需要に充て居るのみなるを以て今後は從來伐採の放棄しある荒廢地の整理及び天然更新に伴ふ植栽に從事する事となり明年度より植林に着手すべし

●平壤府の牛と皮　平壤府の生牛及牛皮に關する調査を聞くに其の年產額は生牛三百五十頭にして最少の時期に於ても隔日二百頭を屠辨し得べく又牛皮は六百枚にて最少時期にて是れに關係する屠畜場は平壤府及び村落を加へて十七ヶ所あり又平壤府に於ける生牛屠殺數は一日平均多き時は十三頭少の時と雖も七八頭を下らず市外村落にありては毎月五六頭或は十三頭に過ぎず牛皮一枚の重量は七八斤より十八斤とし十八斤以上の物は異數なり牛皮は枚數に據らず斤數に賣買する例とせるが本年に於ける平均價格は大皮（一枚にて十八斤以上のもの）百斤につき最高三十六圓最低三十一圓、中皮（一枚七斤以上十七斤以下のもの）百斤に付最高三十五圓最低二十七圓、小皮（一枚九斤以下のもの）最高四十一圓最低三十二圓なり從來牛皮の賣買は屠牛の手より直ちに內地人の手に買取せらるゝなくして從來仲買人の手を經て乾燥を經たるものゝ內地人商人の手に歸するが常にして內地人の直接に取引するは最も少く又仲買人は直接に內地商人より得る手數料は大抵一枚に付二十錢の割合なりと

●慶北の養蜂　養蜂は農家の副業として其有利を認められ內地に於ても近來之が發達を見つゝあり朝鮮に於ても江原道、平安道等の山間地方には相當の飼養を行ふる由なるが慶北道に於ても義城、善山、青松地方山間部に中ば天然的に養蜂されつゝあるが未だ極めて幼稚にて其發展の傾向なし然して近時藥料に食料に蜂蜜の需要增加し又副產物蜜蠟は藥劑として貴重さるゝ本の副業として相當然して本年の義城及金山品評會に各此蜜蠟の出品あり審査員は大に其奬勵の價値を認めしさるゝ事なれば漸次其發達を見るべきなり元來此蜜蜂は天然に山野に棲息し捕獲自由なれば飼養の改良法を教へ又改良式蜂箱の使用奬勵等を行へば其効果期して俟つべきものあるべし

文苑

◎閻魔廳俳句局より（三）　俳亡者

ヨツパ會同人諸君

大王の左右には芭蕉、去來、其角、嵐雪、許六、子規、太祇、一茶、杯アライル俳人星の如く居流れ形の如く住所姓名職業杯取調べ終るや是より俳人かわる〴〵姿態に於ける俳諧俳風より俳人の人格杯に於ける牛人、不考郎、諸先生最近の御吟を靑に讀み上げ更に碧氏を同雜誌一部宛呈せしに其の一派は大に銳とせら隊長支考を始め凡董、致し終に合議の末大多等蕉派宗匠の面々多數不可解と決定此に於てたる罪淺からざる者とシザ油を絞られ直に娑くも俳句局にて一夜假を受申候を芭蕉翁のと行猶豫を得朝一番のさるゝ都合に相成申候べきに不拘俳句に到りを容るゝの餘地なきにの外無之候俳句局杯も盛なる事勿論の儀に御、牛人、不考郎、射石、目勇將猛卒續々閻魔廳に局の刷新あらん事の一れ從要にて縷々可申上候

外事一束

▲墨國　現役將軍數名現大統領を暗殺し首府を占領してレース將軍を擁き大

▲統領たらしめんとの陰謀を企て實行の間際に至りて發覺し連累者被捕縛

▲土國　亞剌比亞人の增援に依りトリポリの土軍強固となりしに鑒して今や

▲伊國と講和談判を開始せんと欲する旨を發表し伊太利よりの提議を待つ

▲米露　條約廢棄に關し米大統領上院に教書を發して曰く米大統領の權能に

▲憑據し千八百卅二年の露米條約が解釋多様なるの故を以て之を廢棄すと

▲駐米　露國大使米露協約廢棄の抗議すとの風說は無根とて露都に取消さる

▲銀行　法案大藏卿に依り提出さる內容は各銀行のトラスト的合同防遏に在

▲倫敦　に於て大汽船會社の合同起り五大線路汽船三百餘隻一會社の所有と成

新年和歌募集

勅題「松上鶴」

選者九皐館主留

一、一人にて何首にても宜敷、用紙用箋は御隨意の事、但投詠者は住所氏名御明記の事

一、締切期限來る十二月二十五日

一、發表は四十五年一月元旦の本紙上を以てす

右は例年の通り勅題和歌募集致候に付同好の御方は挙つて御投詠あらんことを

京城新報編輯局

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

[illegible]
仁川支局
東京市京橋區南金六町七番地　東京支局

梁川庄八　第六十四回　小金井蘆洲演

外記の才助は甲府の町を指して來りました、甲府の柳町には、五臟圓源太夫と云ふ、香具師の親分があります、申すまでもなく五臟圓を商つて居るのでございます、其家へ參つて　才『エー手前は仙臺の熊野傳三郎の子分才助と申します、當分當所に逗留して、渡世を致したうございます故、然るべくお執持を願ひたいと申入れました、香具師仲間の附合として、仙臺の熊野傳三郎の子分だと云ふ、證據を持て居るからは、相當の扱ひをしなければならぬ　主『アヽ、能くござつた、就ては當家の子方の泊つて居る處がありますから、夫れへ私から御案內申しませう』と其子宿と云て、子連の合宿がある、其處へ五臟圓の主人が案內して、一同に引合して呉れました、香具師の面々も奧州の客だと云つて、いろ〳〵執持つて呉れまする、甲府の柳町と云ふは、旅人宿の澤山のある所でございますから、外記の才助は或は庄八は、此處に逗留して居るやも知れぬ思いまして、一日香具師仲間のものに向ひ　才『私が國者で梁川庄八と云ふものが、若しや當所に泊つた事はありますまいか、此男は源留の旅籠屋に奧州仙臺浪牢の浪人と云ふ、肩書をして宿札を懸けて置くものですが、お見當りはありますまいか　仲『いや其話は嘗て聞きましたが、爾う云ふ人は此處へ參りませんな、併し商賣に出る序に旅籠屋の軒を見て步けば分る事ですから、明日から爾うなさい、お前さん其牢破りと御親類でも有かね　才『いや爾う云ふ譯ではないが、彼の人は誠に惜い人だから、一寸聞いて見たのです』して見れば庄八はまだ甲府へ來んと見へるな、よし〳〵彼が此地へ入込むまで待て見ようと云ふ決心で、夫れから每朝〳〵甲府の町を、彼方此方と、熊の膏藥を賣りながら、旅籠屋の軒下を見て步きましたが、一向左樣な宿札は見當らない、お話變つて甲府の在町に、若王子と云ふ處がある、甲府の城下から三里離れて居りますが、其若王子の在に、駒ヶ瀧村と云ふ處があつて其處に駒ヶ瀧大明神と云ふ社がムります、で此御山にある駒ヶ瀧と云ふ瀑布は高サ十丈八尺幅二間の大瀧其處に安置してある神でございますから駒ヶ瀧大明神と云ふので、年々八月廿三廿四日の兩日が此明神の御祭禮でござりまして二基の御輿を擔いで十丈八尺の瀑布に持て行き、處の若者が御輿を瀧壺で洗ひます、其日は遠近聚つて參詣がてら御輿洗ひを見物に參ります、恰度其御輿洗ひの御祭がいよ〳〵明日と云ふ事になつたものですから、香具師仲間の者は一同御山の半腹から麓まで場割をして渡世を致します　甲『何うだ仙臺の商人場割を取て上げやうか御前も膏藥を賣て見なさいよ　才『へー何分宜しく願います』そこで香具師仲間が申合せて、山の半腹の宜い處に才助の場割をして呉れました、才助は翌朝其處に店を取擴げまして、前には熊の膏藥の効能書と、熊の足か何かを看板に出し、夫れから其熊の膏藥を煉て商ひを始めました、此人は仙臺の人でございますから、國訛りで誰れが聞いても、奧州者としか見へませぬ、男振りは立派であるし辨舌は宜し　才『エー此熊の膏藥は第一、雁瘡、瘰癧、胝、胼、水虫などの妙藥でござい』と能書を述立てながら頻りに商つて居ります、田舍の百姓の事とて、水虫や胝胼に苦む者が多いものでございますから　百『何卒其膏藥を私にも一貝私にも一貝』と諸方から手が出まして、見る〳〵中に膏藥を賣切りました、彼是する內に未刻少し過になつたから、店を疊んで歸らうかと思つて居ると香具師仲間の者が遣て來て　仲『何だへ仙臺の客人賣れたかな　才『はいお陰樣で大分商ひがありました　仲『夫れはまあ結構だ、もう御輿を擔ひで來る頃だ、店を毀されると詰らないからもう仕舞なさい』そこで有難うございますと云つて、品物を殘らず仕舞い、軈て之れを背負て立上らうとする途端、山上山下動搖き渡りて、人聲俄に起つたから、扨は御輿を擔出したかと思ふと、喧嘩だ〳〵と云ふ聲が聞へる　才『人氣も立つて居る人込みの中、恐らくは何かの間違から起つた喧嘩であらう』と才助は山の腰に身を寄せて立つて居ると、『よいしよ〳〵よいしよ〳〵』と云ふ聲が聞へまする、扨は御輿かと思ふと左に非ず屈強の若者十人ばかり、何れも褌一ツ素裸の年若の一人の男を胴上げにして、『よいつしよ〳〵よつ　よ』と擔いで來ます、

東京電報

▲新年御式次第　二十二日宮內省告示にて明治四十五年新年御式次第發表さる

▲觀兵式に行幸　一月八日陸軍始觀兵式擧行につき天皇陛下には同日青山練兵場に行幸の旨仰出さる

▲議會召集と議長　二十八議會は今二十三日召集せられ貴衆兩院各部長の撰擧を行ひ衆議院議長には大岡育造氏當撰したり

▲國寶指定調査　內務省內の社寺保存會は二十二日より三日間總會を開き特別保護建造物に附すべきもの十六種國寶に指定すべき繪畫刀劍佛像六百八十點を調査し明年一月發表すべし

▲連絡船內急行券發賣　鐵道院にては關釜連絡船乘客の便利を計り下關發急行列車に接續すべき急行列車券を各連絡船內にて明年一月一日より發賣することゝせり

▲鑛毒調査會開催　內務省は二十二日午後一時より鑛毒調査會を開き本年度に於ける鑛毒除害事業の經過其他諸般の報告を爲すと共に來年度事業計畫に關し協議したり

▲豫算綱要發表準備　大藏省にては明年度豫算を議會提出前に其綱要を發表せん意向あり目下綱要書調製中なるを以て遲くも二十五六日頃發表せらるべし

▲六國警告と媾和　日英獨米佛露六國の北京政府に對する警告は媾和前途に就て非常に重要視せられつゝあり

▲漢口派遣隊出發　久留米第十八師團中の步兵二ヶ中隊及機關銃隊一隊(人員三百名)より成る漢口派遣隊は步兵大佐尾野實信氏指揮官となり二十五日久留米出發二十六日門司を出帆するに決す

▲漢口派兵の說明　二十二日外務省は列國使臣に對し漢口に陸兵派遣の理由を說明す

▲神奈川千葉二縣强風　神奈川縣下及び千葉縣の沿岸に强風あり被害多し

▲伊豆國の大火災　伊豆國伊東に二十一日大火災あり燒失戸數百餘戸に達す

北京特電

▲媾和談判內容　當地確かなる筋に達せし報道によれば二十日に於ける官革兩者媾和談判會議にて(一)更に七日間即ち二十四日午前八時より三十一日午前八時迄休戰を爲す事に一致したり(二)革命派の委員伍廷芳は清國の爲めに新政府樹立の必要を主張し、北京政府の委員唐紹怡は伍廷芳の意見を容るゝことを述べ尚此事件は頗る重大なるものなれば一應北京政府に通知すべしと附言したりと

▲山東省內革黨蜂起　山東省內曹州、交州、貴州等の各地に革黨蜂起し昨今土匪と連絡し其勢ひ猖獗を極むとの報ありたり

▲廣東兵器廠近狀　廣東石井兵器廠に於ては職工千六百名を使用し目下日夜銃砲の製造に從事し居れり

▲吉松司令長官入京　第二艦隊司令長官吉松海軍中將は二十二日入京せりと

上海電報

▲孫果して歸る乎　孫逸仙[illegible]乘船しをれりと傳へられたる[illegible]ナ號は二十七日上海入港の旨通報ありたり

雜報

●漢口日本居留地平穩　漢口の日本居留地は平穩の狀態に復し本邦人の一時避難したるもの昨今歸還する者多く今や百十餘名を算せり

●東清南滿鐵道連絡實施　南滿鐵道と東清鐵道の貨客連絡は來る一月五日より實施の筈にて滿鐵は過般來其筋に認可を申請中なり

●寺內總督歸任　既報の如く寺內總督は二十三日馬山を視察し同地發の上二十四日午前特別列車にて同日午後四時南大門驛着の豫定なりと

●京仁叺莚需要額　京仁地方に於ける叺及莚需要は年々增加するを以て當局に於て勸業授產事業として朝鮮人にて繩叺及莚等の製造を獎勵さんとの內議あり其結果京仁に於ける最近の需要を調査したるが昨四十三年度に於ける京畿に於ける叺の移入は三萬三千枚莚は五千枚にして仁川にては叺百三十七萬八千九百四十五枚價格三萬六千四百十六圓繩及莚は百二十萬六千九百八十五枚四萬六百四十九圓に達したるが何れも其用途は米穀の包裝に使用したる後石炭俵又は土工用に用ひられ莚は陸軍に於ける被服の包裝等に用ふる者にして平均相場叺一枚二錢莚一枚九錢なるが四十四年一月より十一月迄に仁川のみにても移入七萬二千三百八十四圓に達せりと云ふ

●安州の石炭鑛(有望)　本[illegible]に着手したる平安南道安州[illegible]鐵萬鎰驛を去る西三里[illegible]西四里新安州驛の西南五里[illegible]鎭の東南一里十町にあり[illegible]炭狀況を開くに炭[illegible]して且つ出炭額の增加に伴[illegible]良好となり探炭上の設備も[illegible]續き前途頗る有望なりと而[illegible]良好なる不粘結性有煙炭に[illegible]內地岩城炭に比し火力稍[illegible]に比せば稍弱く暖爐用又[illegible]汽船の燃料として最も適[illegible]さ現在就業人員は勞働者[illegible]朝鮮人百六十名にして採[illegible]十一月下旬に至るまでの採[illegible]噸にして此內淸國安東縣[illegible]方に輸出せし高二百五十噸[illegible]需要益々增進の傾向あり尙[illegible]は鎭南浦新安州間に介在す[illegible]して從來旅客の乘降貨物の[illegible]見るべきものなかりしに本[illegible]に在つては俄然として盛況[illegible]の傾向を來せりと鎭南[illegible]總督府へ報告せり

●稅關休日實施達　各稅關[illegible]所に於ける小包郵便物檢査[illegible]日、紀元節、天長節の三[illegible]の外他の祭日及び日曜は[illegible]て事務を取扱ひ而して京城[illegible]所及び平壤稅關出張所に於[illegible]物の通關事務は同じく一月[illegible]節、天長節の三大祭日を除[illegible]祭日は午前中事務を取扱ふ[illegible]の筋より通達ありたりと

●官有財產調査會　二十三日午[illegible]總督府に於て官有財產調査[illegible]同十一時半散會したり

●苧布製產獎勵急務　…某當局者の談…

△苧布の需給現況　朝鮮に於け[illegible]需給現況を記さんに元來鮮人[illegible]を以て主として夏季用に[illegible]苧布類は其需要爲他の衣服[illegible]多數を占むるは數の免か[illegible]而して古來朝鮮各地共之[illegible]の生苧の栽培に適當し苧布[illegible]產にして全國に於ける需要[illegible]國產に仰きしに其後各種の[illegible]衰微及人民勤勉心の缺乏其[illegible]に於ける惡政の影響等相俟[illegible]減するに至り同時に近年[illegible]淸國產苧布の輸入漸く其數[illegible]國產は之が爲に壓倒せられ[illegible]其面影を留むるのみなり試[illegible]二百萬人とし其半數六百[illegible]を通して此苧布を着用[illegible]推測せんに一人一箇年に要する苧布の代金五十錢とするも尙ほ三百萬圓を要す然るに現今淸國より輸入する苧布は一個年約一百萬圓を算するに今の如く朝鮮產苧布の產出振は[illegible]さるに於ては遂に淸國產に壓倒せられ折角の國產物は其跡を絕つに至る可きを以て之れか生產振興策は當面の急務なりとす

△苧布の產地產額　古來苧布の生產地として有名なるは慶尙北道安東咸鏡北道吉州、忠淸北道韓山地方にして其中安東地方の製造品は微々たるものにて吉州地方產は自家用に限定せられをるを以て普道一般に需要せらるゝは韓山地方產にして其地方舒川に屬せる韓山、鴻山、林川、舒川、庇仁、靑陽、扶餘、藍浦等各郡に於て十年以前にては年產額約三十萬疋より四十萬疋の多數に上りたりしと雖も今や其製作は漸次減退し今日に於ては年額僅かに九萬疋に滿たす而かも其製織術たるや原料たる苧麻の纖維を手紡し婦女子農閑の副業なるにより其價格從つて高價なり

△製產衰微の原因　舊韓國政府時代の惡政及人民の勤勉心失墜等要するに其一因たるや疑ひなきも此外に居間と稱する仲買人の爲めに價格を左右せらるゝ爲生產者は從つて利益薄き此業を勵まず居間は專權を極めて生產者を壓する等のもの又其一原因たらずんばあらず苧布製出の獎勵は先づ此居間の手を經過せずして取引すへき方法を企畫するにあり

△救濟方法は如何　地方產業を振興せしむべき政略上より見るも苧布生產業の改善は忽諸に附すを得ず而して機業者を救濟し斯業を發達せしむるに就て最も必要なるは一手に之を購買する投資者を要すると製作地方の金融組合は組合員たる機業者に對して組合より原料買入資金の低利融通製作品の委託販賣を實行せしめ製作物の改良增加を企圖せしむることを努めて怠るなくんば外國品の輸入を制止し其國家經濟上に及ぼす效果亦大なるへきを信ず

●滿洲在鮮人の歸化　南滿通化懷仁、柳河等に在住する朝鮮人等は李開榮李經東の二名を代表者とし淸國歸化を願出でたるを以て民政使交涉使は目下夫れ〲事情取調中なりと云ふ

●外國人の會社事業　朝鮮に於て會社令により願出をなしたる外國の會社は總計十個所にして內仁川に四個所京城に三個所遂安に二個所雲山に一個所なるが事業の目的は煙草製造販賣輸出入業、礦山業、建築開拓代理商等にて右は何れも支店なりといふ

●民團助役增員不必要　京城民團にては京龍合併當時より二人の助役を置く規定にて爾來運動するものありしも昨今のところにては之れが必要を認めず當分一人の外に置かざるべしとのことなり

●列車運轉時間繰下　既報四十五年一月一日より標準時改正に就ては鐵道管理局にては列車運轉時間を三十分づゝ繰下ぐべしといふ

●英國副領事の結婚　英國副領事ペートン氏は今回南大門通りスクラントン病院長の息女スクラントン孃と婚約成り來る二十八日午後二時英國教會に於て華燭の典を擧ぐる由

●英副領事結婚披露祝賀會　英國總領事ボナール氏は二十八日午後四時より六時の間に於て副領事結婚披露の爲め祝賀會を催すべしと

取引所設立贊否意見(六)

▲高橋辯護士　曰く京城に取引所が必要か不必要かといふが如き今更らしく之れを論ずるの要なく當地實業家の代表者七十余名が連署を以て設立を申請したに見ても其の必要は分り切つたことで又た其の必要なる理は我輩の起草した設立趣旨書に盡して居ると思ふ只玆に當局者に對して希望せざるを得ないのは現に朝鮮では仁川に米穀の取引所が一ヶ所許可されて居るが其の成績は如何即ち其の朝鮮を通じて只一ケ所の取引所たる結果は今年の如き人爲的の相場を定め却つて眞實なる相場を攪亂するに至つたではないか若し仁川の他京城、釜山、木浦、鎭南浦等にも取引所が設立されて居ると假定すれば決して仁川取引所をして斯の如き不始末を演せしめるものでなく又た演せんとして決して成し得べからざることであるのだ蓋し米穀の相場なるものは產出額、消費額、繰越し額、出廻り等に依り自然に定まるべきものであつて假りに少くとも二ケ所以上の取引所が朝鮮にありとすれば決して人爲相場の定まるべき理由がないからだ次に當局者が余り注意を拂はざる事實で而も京城取引所設立の必要理由は內地に於て未だ取引所法の制定せられざる以前に於ては各問屋業者、札差等の各商店で盛んに米穀の取引が行はれたが夫れと同一の現象が京城にも行はれて居る即ち京城在住の大官兩班等の大地主にして地方に土地を有する輩は其の收穫米を收穫期に於て證券を以て其の賣買を行ひ其の證券は取引所證券同樣に賣買されて居る故に京城は實物の受授はされぬとしても其の實買場所になつて居つたので此の事實からしても當然京城に取引所を設立するの必要あるを認める且つ取引所所在地が如何に[illegible]あるが爲めに繁榮を增すかは東京、大阪等の事情に顧みて明かである最後に今日京城に於て正米相場を左右するは一二精米會社の權力に屬し彼等は其の精米原料に缺乏すれば猥りに高値を呼んで附近の米產地より買出しを試み又た其の精米原料潤なるに於ては安値を唱へて地方からの出廻りを妨げる斯の如きは產業即ち農民一般の不利は勿論延いては諸要者にも惡影響を及ぼすこと極めて大であるので近時精米所が努力を抑へる[illegible]に於ても京城に米穀取引所は是非必要である尙は京城諸株券の現在數少きの故を以て其の株式取引所の無用を叫ぶはこれ實に顧るに足らぬ議論で株式取引所在つて始めて諸株券は集るのである云々

▲三島鮮銀理事　曰く取引所が經濟上必要なる機關であることに對しては何人も異議なかるべきところで取引所に公定相場を立つる等の效果あればこそ夫れに伴ふ幾多の弊害も看過せらるゝ譯である併し今日之れを京城に設立するとして果して其の效果は弊害に優るものありや又た京城取引所に於て定められたる米穀及び諸株券等の公定相場なるものが果して一般の公定相場たり得るの權威を有するに至るか等を稽ふるに於ては其の設立時期が早きに失しはせざるか今日の如き經濟狀態に於て尙ほ且つ取引所なるものが其の眞正の活動をなし充分なる効果を社會に與へることが出來るか什うかを思へば京城取引所設立の如き決して急を要する必要はないと思ふ。

●開城附近の牛價比較　開城附近に於ける三年間の牛價高低比較を記さんに四十四年一頭三十五圓四十三年一頭三十圓四十二年一頭三十二圓の高低平均額を示し本年に入りては一月及八月最も低落し六七月は最高く他は槪ね中間に在て一上一下ありといふ

●丁傳卒業證書授與式　既報の如く總督府工業傳習所は二十三日午後一時より卒業證書授與式擧行に付山縣政務總監には午後〇時三十分菊池農商工部長官桑原秘書官を隨へ同所へ臨席したり

●寺洞鑛業所の新設備　平安南道寺洞鑛業所にては過般來水道工事中の處此程全部完成し去る十日より供給しつゝあり尙又同所にては所員の傳染病患者を入院治療せしむる爲め病院建築中なりしが之れ又二十日を以て落成したり

●郡吏等の邦語講習　京畿道楊州公立普通學校職員其他各官廳職員等發起にて今回面事務所の一部に國語及朝鮮語講習會を開設せるが目下會員二十五名にて何れも熱心に研究しつゝあり

●民團吏員の忘年會　當民團にては吏員一同二十三日午後六時より井門本店に於て忘年會を開催す

●水利組合と成績　朝鮮全道に於ける水利組合は群山に三個所、密陽に一個所、蓮山に一個所、順坡に一個所、益山に一個所都合七個所あり何れも着々として好成績を擧げつゝあるが來年度は北鮮方面に設立さるべしといふ

●取引所發起人の晩餐會　京城取引所設立發起人中重立てる者數名は廿四日午後六時より晩餐會を開き席上高橋辯護士の內地實業家等の取引所に關する意見の披露あり尙ほ種々今後の運動方針に就き內議を凝らすべしといふ

●李王家の總督出迎　別項の如く寺內總督は二十四日歸京するに付李王家より李王職長官閔丙奭子尹德榮子を水原迄で出張せしめ總督を出迎はしむ

●東拓の落成披露宴　既報の如く東洋拓殖會社は來る二十八日同社創立第三回紀念日なると且新築事務所落成披露の爲め同日午前十一時新築事務所に於て盛大なる宴會を催すべく二十三日夫れ〲案內狀を發したり

●警務總監部員の異動　總督府警視三浦惠一氏は警務總監部庶務課勤務を免ぜられ警視太田清松氏庶務課勤務を命ぜられたり

●日本大學の校友會　日本大學校友會に於ては木尾岩本兩辯護士發起人となり來る二十五日午後六時より南山町掬翠樓に於て忘年會を兼ね懇親會を催す可しと

●釜山十一月中貿易　十一月中釜山港の貿易額は百九十二萬五千三百二十一圓にして其內輸移出額五十一萬八千八百六十圓輸移入額百三十萬六千四百六十一圓なり之を前月に比較すれば輸移出額十二萬二千七百七十五圓輸移入額四萬六千八百五十八圓合計十六萬九千七百三十三圓を增加し更に之れを前年同期に比較すれば輸移出六萬九千五百六圓輸移入四千八百三圓を增加せり而して前月に比し增加の主なるものは輸移出にありては米、大豆及鹹魚輸移入にありては食鹽綿織物金巾石炭木材及板、繩等にして減少せしは輸移出鮮魚、牛皮、生牛等輸移入砂糖、石油、日本木綿、紙及マッチ等なりとす

公人私人

▲高津龜太郎(公司技師)　二十二日原金へ
▲相澤倉吉(臨益水利組合技師)　同不知火へ
▲宮家正義(參政局技師)　二十二日出發開城へ
▲野口多門(朝鮮日報社長)　同安東縣へ
▲白山清(鏡城憲兵隊長)　同釜山へ

▲京城手形交換高▼

十二月廿三日　一三〇、四四一、七五〇　五四三

▲治外法權▼　昨日朝鮮總督府から配付になつた同府發行の經濟概報に依ると、本年一月より十一月末日までの輸入累計額が四千八百七十六萬四千八百二十四圓で、同輸出累計額が一千六百七十九萬三百圓だ、シテ見ると輸入超過額は三千百九十七萬四千五百二十四圓だ▲尤も同報別項に示すが如く、一月以降金銀價格輸出の累計超過額が七百三十三萬八千二百五十圓であるから、右を差引けば、眞の輸入超過は二千四百六十三萬六千二百七十四圓だ▲サテ數字ほど正直なものはない、而して今や右の數字は吾人の面前に現はれて居る、輸入超過を議する者は決して此數字を忘れてはならぬ▲御用紙京日が例に仍り、亦々朝鮮經濟界なる似而非樂觀的社說を揭げて居るが、コンナつまらぬ事を書くヒマがあつたら、ナゼ度支部當局の教でも受けてモット氣の利いた事を書かないのか▲一體京日現在のスタッフ中經濟財政の判るものは、乍失禮マア一人も無い樣だ、で其面目に經濟論を試み樣とでも思ふなら所謂社說なぞを器械的に活字を並べるよりは、度支當局者中の經濟財政專門家に眞正の意味の社說を書いて貰つてソレを載するが良い▲經濟と云へば、一ケ月の電燈料許りに大枚八百圓も要すると云ふ、例の龍山總督官邸に就いては、會計檢査院も從來大分心配して居たとの事だ、トコロが最近誰言ふとなく、該官邸が離宮になるとの噂が傳へられる▲サテ恐多い事ではあるが、該官邸が眞に離宮と變せらるるならばコレ程結構な事はない、而し先づ第一に考へねばならぬは、該官邸を離宮と變するには總督府より宮內省に向つて獻納の手續きをするか、但しは宮內省が總督府より之れを買上げの手續になるかだ▲次に考へねばならぬは、官邸現在の場所と其建築物とが、漢江の吹晒しに當ると、間取りの惡しき爲に程良く光線を受けざると、に因り離宮としては餘りに不健康的にはあらざるかだ▲之れを聞く、龍山鐵道官舍の住人に肋膜炎の患者多しと、若し眞なりとせば總督官邸はドウダローか▲一旦離宮と定まつた後に、コレが不健康地だなぞと云ふ事にでもなつては、ソレこそ畏邊へ對して相濟まぬ譯だ、ダカラ離宮說が本當なら、先以て各醫學專門家が調査研究を盡したがよからう。

●小勇拍子の落膽

▽遂に呑舟の魚を逸す

去る二十日の夕方の事旭町三丁目の開進亭の玄關に轄を列べた謹讀輪四臺、御案内！の聲に送り込まれた客がある一切萬端心得た仲居の案内に伴れて二番室に通される、二名は羽織袴、二名は洋服姿孰れ劣らぬ紳士振り、座が定まると羽織袴の一人は他の者に向つて他の奴等は否な野郎ぢやないか最初會費は三圓五十錢と極めて置きながら終には二圓五十錢位で濟す樣にと主張したのを餘が今日は大々的の忘年會だから追徴があるものとして五圓位用意して呉れと大束を極めたものだから夫れに兵古垂れて出て來ねぇ情意投合したのは吾等四名丈なんだ今夜は一つ大に飲うぢやねぇかと大に飲れ相に話して居る間に膳が運ばれる酒が來る席に侍つた面々は榮、小廣、小勇、巴枝に京城券番玉家席の仇吉と合計五名酒も八ヅむ話もハヅむ中に耳立つのはヤレ權利が廢うで義務が德う不聽期間だ刑事辯護だ無罪が何うで若手金が何百圓位ぢや駄目だなんて七六ヶ敷い文句の聯る筈なき藝妓の一人榮は例のが其方だけに大きく唾液を飲み込んで小勇の袂をグイと引き『チョイと旦那方はねえ、かしいよ、ヨ妾の彼れつて何の口だつて、憎らしい彼れよアノ本町一丁目よ、アゝアレだよ、アレだつてこさ』と當惑と云ふ奴を聞いた小勇元來氣の早い女なり其話の間にモウ河村さんの事はヽイと忘れて終ひ『左樣なの、厭な事かい、アゝ左樣、フーム妾も何だか懷かしいよ、アー懷かしいともサ』と唾液を飲み込み〳〵彼れか此れかと首實檢捌目は目鼻は鼻と云ふ風に一つ一つ引放して驗ると『此ならば』と云ふものは無いので一旦は思ひ切らうと思つて居る所へ男の面の詮索に氣を奪られて氣が付かずに居たが便所に立つて戻つて來た客の顏を見ると小勇遂にデレ〳〵し出し『貴下や〳〵』と謠ふ水の專用栓を開放して秋波をザワ〳〵ザワ〳〵と音のする程送つたり人木石に非ず水心ある小勇の素振りに其男も魚心を出して交情正に成立せんず形勢物凄く見ゑたるが好事魔多し其人頗る香兵衞とて遂にグダン〳〵に醉拂つて仕舞ひ夫れ所か足腰さへ立たぬ始末に如何に小勇が惚れてもアヽつても此斗りは靈うにもならず遂に人力車で五十錢のた使同樣に歸り〳〵とある仲居藝妓の一同玄關に手を支へて『だ近い内に』と叮嚀に挨拶してる中に小勇は一人物をも云はず突立つて無念の形相悽ましく吐く息は焰の如く今にも蛇になつて直ぐ眼の前の日蓮宗開教院の鐘を七卷半もやらうかと思はるゝ程なのに吃驚した仲居に背中をドヤされ漸く吾に返つたが夫れでも未だ思ひ切れず今の方は何處の方か檢べて呉れとの注文に帳場さんが檢べ上げた處に依ると右は辯護士木尾、岡田、中村、辰市の四君と秘書櫻井、藤井、佐藤、稻葉の四名で小勇の岡惚つたのは辰市さん所の稻葉さんと判明したので猶更思ひ斷れず又逢ふ事もあらうかと馬鈴薯と豚を斷つて聖天樣へ願を懸けて居るとぞ、芽出度し〳〵

●田中守平は醫師か

▽万病平癒の大看板

甕子教會長とか何とか云ふ恐ろしい肩書を振り回して諸病治療に從事してる男がある、支那人や朝鮮人でさへ邪魔に感ずる程の頭髮を伸して而して面はお化粧をした如に磨き立て、絹布を纏ふて行者の如な異似を白晝公然して居る彼れ田中守平は醫師か彼は曾つて天皇陛下に直訴したと云ふ事があると之れを履歴の一として居るが陛下に直訴した事は甕子には脈絡がない、其後四年間郷里の山に籠つて大に神人融合を試みて甕子なるものを發見したと號する、而して此は信不信に拘はらず病氣に利くと云つて初回は二圓次回よりは一回一圓宛を徴收する相だ治療費として營業か營業か、營業ならば神秘的な面を脱いでマッサーヂや新醫者の如に平凡な面を冠つて貰ひたい、比較的此方面の智識に缺關せる愚民や迷ひ易き病者の弱點に乘じて奇利を博する如な奇的な營業は斷じて取締る必要がある彼が施術の方法は一室を密閉して患者と自分とのみ相對するのだと云ふ、彼は神の如な侵見でも若し對手の若き美しき女が不埒の量見を起さぬとも限らぬ兒に角男は美しい而して病氣をも癒すと云ふ奇跡を殘す人間だ惧いと思へば墓はしくもなるのは理の當然だ、夫記者は施術を受けられつゝある人名を發表することを田中守平に向つて二十三日午後請求せしめた、應ずるか否か次號に

●無賴漢の大檢擧

▽在留禁止者續出せん

毎年北鮮地方の結氷期になれば同地方に在住せる土木請負業者並に之に屬する土方或は博徒等の多くは京城龍山仁川等に入込み賭博を常習とし或は弱者を苛め或は一般工事入札場に至り開合金を强制する杯の事あるより警務總監部に於ては各警察署共に此等無賴漢の檢擧を爲す可く命じたるが二十三日午前五時南部警察署は非常召集を爲し彼等無賴漢並に浮浪者若しくは窃盜嫌疑者の檢擧に着手し二十三日午後一時迄に五十余名を引致し來り目下彼等の寫眞撮影をなしつゝあり彼等の多くは髯を生し絹布の衣類若しくは洋服を着し或は金縁眼鏡を掛け一見紳士然とさせる中には半纏着の職工もあり原籍住所氏名年齢は取調中にして撮影したる寫眞を朝鮮全道の各警察憲兵隊に配付し彼等に對し嚴重なる取締を勵行する由にて彼等の内十數人は兼て朝鮮在留を禁止せらる可く下の三人は既に社會の安寧を妨害し且つ風俗を壞亂する者として三ヶ年間在留禁止の執行を今村南部署長の手にて受けたり

香川縣中多度郡神野町大字眞野六十四番戸當時京城吉野町一丁目二十五番戸土木請負業 大鹿元三郎（四三）

京城旭町一丁目野村吉三郎方居住香川縣小豆郡豐島村字家浦八十五番戸 石工 山口龜吉（二八）

兵庫縣川邊郡尼ヶ崎村百五十九番戸 當時京城若草町二丁目一番戸 土木請負業 田中竹松（四〇）

社告

島見匆々急稀月と相成本紙新年號準備の期も愈相近かづき申候就て本紙が此際愛讀者各位に御願致度は本紙新年號に掲載すべき各位

玉稿の御寄贈

に候其玉稿の論文たると將た美文たると詩、歌、俳句情歌端唄たるとは各位の御隨意にして本紙は硬軟何れをも歡迎仕候

新年畫附錄

本紙新年畫附錄は本紙が特に邦畫の大家川端玉章翁に依囑して成りたる勅題松上鶴の祝畫にして其高尚優美なるは贅言を要せずと被信候

十二月 京城新報社

●歲末の口入業者

▽男は大抵出前持

歲末の口入屋覗きは隨分馬鹿氣きつたことで眞面目な口入屋の多忙なのは三四月頃と大抵極まつてゐるもの、萬事極まつた通りには行かぬ朝鮮のことゝて人間の弱點に附け込んで巧みに毛を運轉し隨分と人の生血を絞り取る曲者が口入屋にもあるとのことにフト面白いこともがなと旭町三丁目の中川紹介所に飛び込んで見た入口に腰掛けた同業者と見ゆるマントを着た男の眼がギヨロリと光る續いて帳場の爺さんと前に控へた三十の坂を四ッ五ッ越したらしい意氣な女との四ッの眼がピカりとする『如何です景氣は』と譯の解らぬことを謂へば知つてか識らずにか御承知の通り手前共の營業は三四月入れ替り時が一番忙がしいので女中さんの口なら何時と云ふこともありませんが押し詰つた昨今は御覽の通りの淋しさですと又もジロリと異樣に眼が光る口は女が重ですかと謂へばェー男の口は出前持ちとか何とか云つた下等な口ばかりですもう不景氣なとつたら御話しになりませんと眞面目な顏（一記者）

東京 羽子板 百福號 京城本町四丁目 電話七四六番

●按摩の試驗問題

▽京日子所報の記事に就て

二十三日の京城日報第四面に『是から按摩さんにも試驗がある』と題し掲載せられたる記事を見たる斯業者の狼狽一方ならざるを見るに見兼ねて南山町四丁目に住する橫濱盲人學校卒業生鍼科マッサージ師津門丑之助なる人より事實の問合せに接したる本社は念の爲め今村南部署長に照會せしに署長は『未だ總監部より其話だに聞き居らず』と答へらる京日子の所報は日本内地の事にして朝鮮、臺灣、華太、滿洲には關係なきものなり

かぜねつさまし

●呉服商の奸手段

▽贋物で質屋を欺く

京城本町九丁目佐藤呉服店方久保太吉（三七）は廿二日仁川宮町一丁目吉田下宿屋に投宿し市中の各質店に黒斜子二十反柳箱入のものを持行き一反八九圓の割合にて金を借り廻り居る擧動を怪しと睨み仁川署の刑事が取調べたる處黒斜子と云ふは名斗り實は贋物にて一反四五圓の直段のものなること發覺したるより京城佐藤方へ照會せし處同店より一反六圓五十錢にて請合ひ之れを各質屋に持行き多額の金を借り惡手段を行ひしなりと

●木炭千五百俵

▽手附金三百圓の行衞

京畿道揚平郡揚平本田支店員愛媛縣人栗山政一（二七）と云ふは去る十月十日京城南山町三丁目薪炭商川西彌三郞に揚平郡の山元より木炭を買出し十一月三十日迄に千五百俵を渡す約束にて懇意の間柄なる龍山元町一丁目清水留吉を保證人に立て、手附金三百圓を受領したるが其後政一は薩張姿を見せぬのみか約束の三十日に至るも木炭を送り來たらざるより不審に思ひ諸所心當りを問ひ合せたるも行衞不明なればサテは一杯喰はされたかと二十三日西大門分署に保證人なる清水より搜索願を差し出したり

●僞使者の惡役行 京城米倉町下宿岩國屋止宿愛媛縣喜多郡大洲町生れ中野力榮（三）が十二月七日午前十一時頃人力車上より本町二丁目洋物雜貨商塚谷ハナ方にて兒玉會計局長の使者なりと稱し毛織膝掛二枚（代八十六圓）を詐取したる事件は京城地方裁判所に於て懲役六月に處せらる

●キリ〳〵アーユメ、いゝ、いゝ 仁川濱町一丁目漁夫柴田作太郎（三〇）宮町一丁目同石倉石雄（四〇）同町三丁目同古木德太郎（三〇）濱町一丁目同仁崎茂助（三〇）寺町一丁目大工職兼子彌三郞（三七）の五名が二十三日午前二時頃前記柴田方に於て賭博の眞最中を仁川署中島石川の兩巡査が探知し現場に踏込み賭金九圓を押收し身柄は引致目下取調中

●官舍荒しの處刑 龍山元町四丁目林寫眞館見習生岡山縣人毛利勗（十九）が京城寫眞館に雇はれ中主人野々村所有のフロックコート外數點を竊取し又同主人の命に因り花月樓光菊外數名より取立てたる寫眞代金五圓餘を橫領其他各官廳官舍を荒したる事件は京城地方裁判所に於て懲役一年六月に處せらる

日曜集會

▲メソヂスト教會 旭町一丁目同教會にては二十四日午前九時半より日曜學校同十時半說教後藤牧師の『聖誕の音』同夜七時よりハリス監督の『クリスマス所感』あり參聽隨意なり

▲京城基督教會 南大門內相生町同教會にては本日午前十時半よりクリスマス禮拜を舉行し夜は六時よりクリスマス祝會を催す由なり猶夜の祝會には渡瀨牧師の式辭あり日曜學校のクリスマス其他各種の餘興ある由なり

平民文庫

▲何彼と申しました『江戸ッ兒會』は延期となつた理由は會員中差支へる向きが多き爲め、だつてねが實際は京城日報社長江戸ッ兒の隊長吉野太左衞門君が寺内伯出迎不在に付かと大なる原因▲寺内伯と云へば伯も東京府に籍があらうから江戸ッ兒だが併し江戸ッ兒にしては少々厳格過ぎるな▲松のすしも食つた事がなく竹仙の浴衣も着た事が無く双子縞に手を通した事もねえ人間を寄せ集めての江戸ッ兒はヱ、オイ乙だせ乙だせ▲會場は花月で會費の五圓も上等だが花月の主人は東京者かい▲苟も江戸ッ兒會と銘打つた以上料理人から仲居さん車挽から下足番まで一切江戸ッ兒で行きてねものだ▲此點から云へば粗末かは知らないが料理人は初音の主人を煩はしたい、酒だつて左樣だよ少なくとも金釜を使ひたい、玄海灘の魚で江戸ッ兒會でもあるまい▲刺身は梶木の拍子木海苔を卷いたら少々濃厚い、吸物は今だから白魚を心に、口取りは蒲鉾を厚くに願ひして、海苔は窪田、半片は神茂のを、ナーニ貴下小包で取り寄せになれば譯はない▲夫れは兎に角と致しまして發起人中の某妓の如きは『マダお話も承りませんが江戸ッ兒會なら東京に籍があらうがあるまいが私共が見て江戸ッ兒だなと思つた方許り集つて神田祭や山王樣の話た猿の數でも話し合つたら面白いと思ひますがね、幾何東京に籍が在つても葛西の阿哥と一緒ぢやねゝ、ヱ、エ勝利さんは呑込んでるんでしようがね、夫にしても何故松葉の時松さんや清水席の櫟助さんや開進亭のお枝さん、中檢のお加代さん、新江戸家の萬龍さん達を何故發起人に入れないのでしよう妾達許りが江戸ッ兒面をしてる如で皆樣に濟まないから私丈はお話があつても御遠慮します』と▲云はれて見ると清水席、開進亭、新江戸家は別として同じ中檢に屬する一等料理店の松葉から代表者を選ばなかつたは少々同家を馬鹿にした傾が見ゆるが松葉は決して他の樓に比して格式が下つては居らぬと僕は思ふが▲話は變るが全羅北道全州では小作人の一揆が益々熾だつて京城日報は自慢してるが御用新聞の云ふ事だ嘘ぢやあるまい事實とする此御仁政も石になるらしいぞ、自慢しぇ〳〵僞いぞ〳〵▲夫れから又同紙に鮮民が、虎を生捕つたが狩獵法違反とあつて虎を官に沒收さるとの記事がある眞實なら此法律も石になる、其處で沒收した虎の皮は誰が取るのか、此も何さか法違反にはならぬかしら（小僧）